

環白神エコツーリズム推進協議会

所在地 秋田県山本郡藤里町藤琴字藤琴 8(藤里町商工観光課)



（アドバイザー派遣申請の背景）

意識啓発と推進に向けたネットワークづくり

白神山地の保全には「地元住民の理解と協力が不可欠」であるが、官と民、青森県と秋田県、各市町村単位で取組を実施しているため、「環白神」エリア一体での取組が出来ていない。

環白神エコツーリズム推進協議会は、行政を中心とした構成団体で平成 23 年 2 月にスタートしたが、「小さく産んで大きく育てる」を基本に、環白神地域の課題や推進の方向性をより多くの関係者で共有し、官民が一体となって推進していくことを目指していることから、環白神関係者を集め、本協議会の設立趣旨を周知するとともに、関係者の意識啓発と推進に向けたネットワークづくりを行いたい。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	
(その他)	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	○
動植物の生息地・生育地	
地形・地質	
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源)	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー		○
地域に特有な野生生物とのふれあい		○
自然の営みにふれる観察会への参加		○
環境教育を主目的とした活動		○
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動		○
地域の生活や文化を体験する活動		○
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながら自然の恵みを体感する活動		○
(現在取り組んでいること)		
(取組を検討していること)		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 2 月 25 日（土）～26 日（日）

●場所

秋田県能代市字海詠坂 3-2（能代山本広域交流センター 第 1 研修室）

●エコツーリズム推進アドバイザー

NPO 法人信越トレイルクラブ 事務局長 木村宏 氏

●参加者

協議会正会員 5 町村長を含み、関係市町村職員及びガイド協会会員、一般参加者 合計 62 名

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

飯山市が取り組んできた「森の家」「着地型観光」「信越トレイル」など、地域の人たちが地域の魅力に気づき、「自分達の地域を自分達を守る」ことの重要性が、本協議会の目指す方向性と重なるため、「多くの人を巻き込んで、一つの方向に向かおうとする時に大切なこと」や「効果的なやり方」について助言いただきたい。

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

エコツーリズムは、「地域住民の気持ちの高まり」があつてこそ推進できるものであり、いかに住民の気持ちを理解しながら活動するかが今後の課題だと感じられた。

意識啓発の一つの手法として、「ボランティア参加型」があるが、「地域住民を動かす戦略」には、地域住民の心を理解した活動が必要であり、「地域の心をひとつに！」が今後のキーワードになると思われる。

●今後の期待される効果

環白神地域の課題や方向性を、より多くの関係者で共有することで、官民が一体となった推進が可能となる。



(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

環白神地域フォーラムは、本協議会の活動の輪を広げるきっかけの場となってほしいと考え、実施しました。

行政主導で立ち上げた本協議会ですが、多くの人や組織を巻き込んで、ひとつの方向に向かおうとする時、リーダーとなる人材は、官ではなく民だと強く思っております。また、民が困ったときの官の力も必要だと感じております。

信越トレイルの整備には、試行錯誤しながら8年もの歳月がかかっております。

環白神地域も、フォーラムの継続や違った形での情報発信により、抱える課題や今後の方向性をより多くの地域住民で共有しながら、また地域住民みんなで汗を流しながら作りあげることが大事であると感じます。

木村先生、貴重なご講演ありがとうございました。

(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

木村アドバイザーからの地域へのアドバイス

世界遺産の白神山地をぐるり囲む県と市町村が中心になって設立された「環白神エコツーリズム推進協議会」が、地域の理解を得、エコツーリズムを推進する方策を模索している状況下、平成23年度エコツーリズム大賞を受賞した「信越トレイル」の取組をケーススタディーとして、「環白神地域フォーラム」を通じ事例を発表し、アドバイスをいただきました。

講話の内容は、自然資源、特にブナの森を有する長野・新潟県境の山脈（関田山脈）の、自然資源の掘り起こしから保全、県境にまたがる地域が

故に培われた峠文化や交流の歴史の継承、そして環境に配慮した新たな観光の仕組みづくりをおこなった経緯や、国、県、市町村の領域を超えた連携、さらには官の役割と住民やボランティアの役割の棲み分け、そして協働の成果としての長距離遊歩道の整備の足跡、また、運用が始まって以降の維持管理の方法や、トレイルの活用事例、課題などのお話をさせていただきました。

また、そもそもの活動に至るまでの地域性、観光事業の変遷、特にスキー観光からグリーンツーリズム、さらには自然資源を生かしたエコツーリズムへの展開に至る過程では、アクティビティの開発やその提供者となる人材の育成にとどまらず、景観や森林の保全や、里山の再生活動に取り組んでいたことが地域の活力となり、信越トレイルという新たな連携事業が出来てきたことをお伝えしました。

地域住民の意識の底上げは、長年にわたるこれらの活動の成果であり、この意識の高揚こそが、市域を越えた活動の理解にもつながっている点は、環白神地域のおいても参考になるものではないでしょうか。また、白神地域は今でこそ多くの人々が知る場所ではあるものの、その実体は未知のものであり、周辺町村の名前すら知らない人が多い状況の中、環白神地域の個々の活動や、共通した思いを知っていただくことが大事ではないでしょうか。「白神山地」にまたは「白神の世界遺産」に何をしに行きたいか、地域からは観光客に何を求めているか、このあたりが「エコロジー」というキーワードでつながらなくてはなりません。

私が思うこと、きっと地域の皆さんも議論してこられたことではあると思いますが、

1. ダイナミックな白神を連想させるブナの森を訪ねたい。
2. 素敵なガイドに誘われて、ブナの森に入りたい。
3. 気軽に参加出来るエコツアーを実施してほしい。
4. ブナの森の上空を飛んでみたい。(ヘリコプターや気球など)
5. 奥山を大事にしている人たちの話を聞きたい。



6. 白神山麓の暮らしに触れてみたい。食文化や生活スタイルを味わいたい。

もちろんもっと多くの観光要素に触れたい、味わいたいという要望はあるでしょうし、緩衝地域や核心地域があり誰でも森に入っていけないことは承知しています。しかし、「白神山地」「白神の世界遺産」という言葉から連想される観光客の要望は、このようなどころにあるのではないのでしょうか。

仮にこれが白神のエコツーリズムで提供出来るようにするという目標が設定されれば、これを地域の人たち、関係者がどのように作り出していくのかを模索していくことこそ、「環白神エコツーリズム推進協議会」の役割であり、目標ではないのでしょうか。1～6の例は私案ですが、地域の人がどんな人を、どんなメニューを揃えてお迎えしたいのか、どのようにもてなすのかを話し始めるきっかけがこの協議会設立の目的ではないのでしょうか。

幸いにして、周辺市町村の首長様の熱意も感じられ、会長をはじめ皆この事案に関心事ととらえていらっしゃることを感じました。首長の皆さんの牽引力を持って、大いに協議会の活動が盛り上がりますことを期待いたしております。

ブナの森は人の心に強く印象を残します。そして悠久の台地の象徴です。力強い自然資源のエネルギーを大いに活用ください。

地域の皆さんの森や里に暮らすことへの関心の高まりこそ、環白神のエコツーリズムの第一歩ではないのでしょうか。

